

よくあるご質問



このハザードマップは水防法に基づいていますか？また、作成されたのはいつですか。

水防法に基づいています。令和7年2月作成です。



藤沢市では水防法に基づいているハザードマップは何がありますか？

土砂洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップ・内水氾濫ハザードマップです。

詳細については、<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bousai/suibouhou.html>（藤沢市HP）を参照ください。



電話で浸水想定区域等に指定されているか確認できますか。

電話での回答はしておりません。ご自身の目視でのご確認をお願いいたします。



〔内水氾濫ハザードマップについて〕

Q 内水氾濫ハザードマップとは？

A 下水道の排水能力を超える大雨等によって、内水氾濫が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深、避難等に役立つ情報をまとめたマップで、水害に対する日頃の備えや避難の際に役立てていただくなど、自助・共助の促進を目的としております。

Q 内水氾濫ハザードマップが必要な理由は？

A 整備水準以上の大雨が降った場合の浸水の危険性をお知らせし、市民の皆様が避難等の対策を講じていただけるように、雨水出水浸水想定区域や避難所等の情報及び日頃からの備え等を記載した内水氾濫ハザードマップを作成しました。

Q 過去の浸水実績は反映されているのか？

A 内水氾濫ハザードマップは、浸水シミュレーションにより浸水想定区域を作成したものであるため、過去の浸水実績は反映しておりません。浸水実績の有無に関わらず、大雨等による浸水の危険性が高い区域を示しています

Q 内水氾濫ハザードマップと洪水ハザードマップの違いは？

A 洪水ハザードマップは、河川で外水氾濫（洪水）が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深を示しています。内水氾濫ハザードマップでは、河川の外水氾濫（洪水）は考慮していないため、洪水ハザードマップも併せてご確認ください。

〔内水氾濫ハザードマップについて〕

Q 内水（氾濫）と外水（氾濫）の違いは？

A 内水氾濫とは、下水道の排水能力を超える雨が降った場合に、下水道から水があふれたり、下水道に入りきれないで地上に溜まったままになることです。外水氾濫とは、大雨により河川の水かさが増え、河川の堤防から越水したり、堤防が決壊して浸水が発生することです。

Q 内水氾濫ハザードマップの使い方は？

A 自宅、学校、職場等の周辺やいつも通る道が、どの程度浸水が想定されているかなど、浸水の危険性の高い場所がどこなのか確認してください。また、ハザードマップには避難等に関する情報、浸水被害を軽減するための備えや大雨時の注意点なども記載していますので、よく読んで日頃から浸水被害に備えておいてください

Q 大雨に対しての避難行動、対処方法について知りたい。

A 局所的大雨などにより、急な浸水が起こることがあるため、避難行動は早めの対応をこころがけましょう。詳しくは、マップ情報面「避難の心得」「事前の心得」に具体的な避難行動を記載していますのでご覧ください。

Q 避難情報は出してくれるのか？また、どこで知ることができるのか

A 避難情報は、自動的に配信されるものと、自ら情報を取得するものがあります。避難情報や気象情報等の収集について、詳しくは、マップ情報面「情報の伝達と入手先」をご覧ください。

〔 浸水想定区域について 〕

Q 雨水出水浸水想定区域とは？

A 想定し得る最大規模の降雨（1時間当たり153mmの降雨）により公共下水道などの排水施設で雨水が排除できなくなった場合に、浸水が想定される浸水区域や浸水深等を、浸水シミュレーションにより示したものです。

Q 浸水シミュレーションとは？

A 地盤高等の地形情報、主要な下水道や水路等の排水施設、放流先である河川の状況等をコンピュータの中に再現し、任意の雨を降らせた場合、どのように浸水するのかを総合的に解析するものです。

Q 浸水シミュレーションの条件設定は？

A 今回の浸水シミュレーションの主な条件設定は下記のとおりです。

- ・対象降雨は、想定し得る最大規模の降雨（時間最大153mm、総雨量249mm、降雨継続時間560分）
- ・浸水深を算出するために用いている地盤の高さは、神奈川県承認を受けたデータ（令3関公第468号の航空測量データを使用（神奈川県環境農政局緑政部森林再生課長、令和4年度森第1550号）
- ・背景図は都市計画図（令和2年度作成）を使用しているため、最新の地形と異なる場合があります。
- ・地盤高測量以降に区画整理事業や開発等で造成されている地域は、地盤高データと背景の地形図が整合していない場合があります。

〔 浸水想定区域について 〕

Q 想定し得る最大規模の降雨とは？

A 国の基準（[「浸水想定（洪水、内水）の作成等のための想定最大外力の設定手法（平成27年7月）」](#)）により定めています。国内を降雨特性が似ている15の地域に分け、その地域内で過去観測された最大となる降雨量を用いて設定。藤沢市は関東地域に分類され、平成11年に千葉県香取市で降った1時間に153mmを使用しています。

Q 外水氾濫（洪水）は考慮しているのか？

A 河川の外水氾濫（洪水）は考慮していません。河川の外水氾濫（洪水）による浸水想定区域を確認されたい方は、洪水ハザードマップをご確認ください。

Q 想定し得る最大規模の降雨を対象とした理由は？

A 水防法で定められております。詳細につきましては、ハザードマップに記載しております、「内水氾濫ハザードマップについて」欄を参照ください。

Q 実際にこのような大きい浸水被害が発生するのか？

A 降雨の発生頻度は概ね1000年に1回程度ですが、実際に発生する可能性はあります。千葉県香取市では、平成11年に1時間当たり153mmの降雨を観測したことがあります。

〔 浸水想定区域について 〕

Q 表示する浸水深を30cm以上にした理由は？

A 比較的浅い浸水深から表示すると、着色範囲が広大となり、特に注意すべき箇所が分かりにくくなってしまいます。このマップは避難等の自助・共助の促進を目的としているため、避難する際に影響の大きい浸水区域を把握できるよう、浸水深30cm以上を表示することとしました。

Q 浸水深の目安は？

A 浸水深の目安は、0.3m～0.5mで床下浸水（大人の膝までつかる）、0.5m～1.0mで床上浸水（大人の腰までつかる）となります。また、3.0m以上で家屋の1階が水没し、5.0m以上で家屋の2階が水没するとされております。

Q 浸水が想定されない箇所は安全か？

A 想定される浸水区域や浸水深は、雨の降り方や土地の形状及び河川・下水道の整備状況などにより変化するため、大雨の際に必ずこの地図に示すとおり浸水するということではなく、浸水が想定されていない地域でも状況によっては浸水することもあるため、十分に注意してください。

浸水深を算出するために用いている地盤の高さは、神奈川県承認を受けたデータ（令3関公第468号の航空測量データ）を使用しています。（神奈川県環境農政局緑政部森林再生課長、令和4年度森第1550号）

・背景図は都市計画図（令和2年度作成）を使用しているため、最新の地形と異なる場合があります。

・地盤高測量以降に区画整理事業や開発等で造成されている地域は、地盤高データと背景の地形図が整合していない場合があります。

【 その他 】

Q

作成にあたり使用しているマニュアルや文献はなんですか？

A

「水害ハザードマップ作成の手引き／令和5年5月」（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室）を使用しています。

https://www.mlit.go.jp/river/basic_info/jigyo_keikaku/saigai/tisiki/hazardmap/index.html

Q

ふじさわ防災ナビ～いま、わたしたちにできること。～の更新予定はあるか？

A

令和7年度中に更新を行う予定なので、そのタイミングで内水氾濫ハザードマップの情報を掲載する予定です。

Q

過去の浸水実績を知りたい。

A

藤沢市役所本庁舎7階の防災政策課執務室の前、4階の市民相談情報課市政情報コーナーで確認及び写真撮影が可能です。（ネットでの閲覧はできません。）

詳細については、市ホームページ↓

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bousai/bosai/sinsuirireki.html>をご参照ください。

Q

内水氾濫ハザードマップの作成年月日はいつですか

A

2025年（令和7年）2月です。

〔 その他 〕

Q 電話で浸水想定区域等に指定されているか確認できますか。

A 電話での回答はしておりません。
ご自身の目視でのご確認をお願いいたします。

Q 雨水出水浸水想定区域は、県知事又は市長が指定するが、市内に県知事が指定すべき区域はあるか？

A 県知事による指定区域はございません。

Q 土砂災害(特別)警戒区域の指定はどのように行われているのか。

A 指定は神奈川県が行っております。
指定の条件等は、神奈川県県土整備局
河川下水道部砂防課（電話：045-210-6511）にお問合せください。